

# 虫供養1年の流れ

虫供養当日（秋分の日）ひやくまんべんねんぶつえ百万遍念仏会が終了すると、次の地区への引継ぎが行われ、今後1年間の虫供養に関する様々な行事が始まります。

## 引継ぎ式

引継ぎを受ける地区と引き渡す地区が丁寧に台帳を確認しながら、慎重に品物を箱に収納します。

品物をなくしたり、壊したりしないように、とても緊張する儀式です。服装は、正装で行います。昔は、紋付羽織袴で行われていました。

## お紐解き

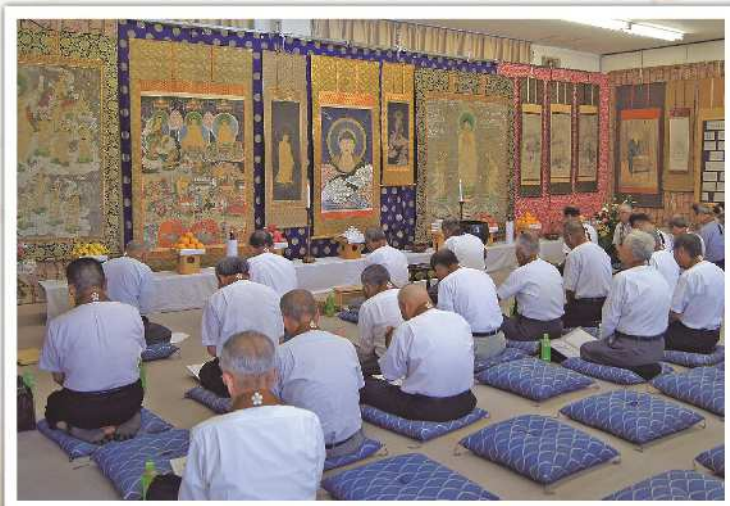
品物を引き継いだ地区が、品物の確認とともに、よく乾燥させて、収納する行事です。

## 寒干し

1月頃には、「寒干し」という行事が行われます。この行事は大切に保管されている掛軸などを寒風にさらすとともに百万遍念仏会が同行衆によって行われる行事です。

## 土用干し

7月頃には、「土用干し」という行事が行われます。掛軸などに暑い夏の風を通し、カビや虫食いを防ぐものです。また、「寒干し」と同様、同行衆によって百万遍念仏会が行われます。



## 大塔婆建て

8月頃になると虫供養会場に建てる大塔婆の作成が始まります。大塔婆は松の木が使われます。今は大きな松の木が取れなくて苦労しています。

10mほどの松の木を削り一文字ずつ銘文を書き入れて完成します。そして、白い布を巻き大勢の人手で建てていましたが、今は重機を使い建てます。

## 虫供養当日

地区の人によって花で飾られた虫供養会場には、幟のぼりが高くひらめき、「大道場」では百万遍念仏が同行衆によって唱和されます。また、地区の人たちが鉦かねを鳴らし当番をする小屋が、一番小屋から八番小屋まで建てられます。

会場に来た人たちは順番に小屋をお参りしていきます。大塔婆には祭壇まつりだんが作られ、ご祈いのち禱した砂場で幼児がお砂踏みすなふみをします。

## お囃子奉納

百万遍念仏が終わる頃には、次の当番地区のお囃子連が会場にやってきます。そこで、送り囃子、迎え囃子の奉納が行われます。現在は、可愛い子ども囃子連によって行われています。



《当番地区の順番》

阿久比の虫供養は文亀2年（1502）には当番が決められ、現在は町内12地区が1年ずつ交代で行事を行っています。町内12地区は次のとおりです。

草木 → 白沢 → 福住 → 板山 → 宮津 → 萩 ↓

↑ 坂部 ← 卵之山 ← 阿久比 ← 矢口 ← 椋岡 ← 横松